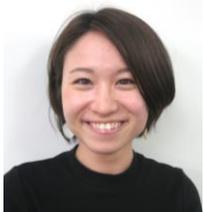


<SDGs> 「世界の課題を自分事として捉える」



ICAN 日本事務局  
小椋 美友紀

2015年、国連サミットでSDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標) が採択されました。SDGsには、「誰一人取り残さない」ことを理念として、貧困やエネルギー、環境や人権等のそれぞれの課題に対して、2030年までに達成すべき17つの目標が定められています。SDGs達成のためには、日本を含む世界中で、未来の社会や地球をどう変えていきたいのか、一人ひとりが考え、行動に移すことが重要です。

そこで、アイキャンでは、目標の2030年頃に大人になる世代である、愛知県内の小中高生約3,800人と、フィリピンとイエメン、ジブチの子どもたち約3,000人とともに、SDGsをテーマにしたキャンペーン「SDGS Youth Action Plan 2018」を開催しました。同キャンペーンでは、一人ひとりが17の目標の中から1つの目標を選び、「今もしくは未来の自分ができること」を考え、文字や絵で表現しました。

「目標11：住み続けられるまちづくりを」という目標に対し、「近所の人々との強いつながりを持つ」という自分の身の回りの生活に当てはめて考えた子や、「目標16：平和と公正をすべての人に」という目標に対し、「他国の言葉を覚え、歴史を知る」といった、一歩踏み込んだ相互理解のアイデアを書いた子もいました。また、「1：貧困をなくそう」には、募金や物の寄付をする。「3：全ての人に健康と福祉を」には、献血をする。「15：海の豊かさを守ろう」にはごみを拾う、等の自分たちにもすぐに実行できるような、具体的なことも多く書かれていました。

一方で、SDGsは紛争や気候変動のような世界が抱える大規模な課題にも目を向けているため、身近に考えにくい面もあります。そのため、学校の先生たちは、日ごろから子どもたちからの質問にも答えられるよう、事前にSDGsについて理解を深めたり、子どもたちが日々の生活の中でもSDGsについて話したり考える機会を作ったりして、SDGsを身近に、自分事として考えてもらえるよう努めたそうです。アイキャンでも、日頃から関わりのある先生たちに対し、各目標に対して「できること」の具体例を提示したり、SDGsの説明や必要性を伝えたりする取り組みを行ってきました。

日本で生活をする多くの人は、世界の課題について考える機会は少なく、たとえ課題に目を向けたとしても、具体的にどう行動すれば分からない場合がほとんどですが、きちんと足元に目を向けると、世界の課題とつながっていることに気付くはず。「SDGS Youth Action Plan 2018」を通して、世界で取り組んでいるSDGsの目標を「自分事」として捉え、「身近にできること」を実践してくれる人が増えることを願っています。



紛争の影響を受けた子どもたち 9月1日/オボック(ジブチ)

「子どもの保護」に関する保護者研修を開催



イエメン難民が暮らすジブチにあるマルカジキャンプにおいて、保護者40名以上を対象とした「子どもの権利」に関する研修を実施しました。保護者の多くは、キャンプ内の子どもの教育や健康を特に心配しており、過酷

な生活状況についての意見が多く聞かれました。研修に参加した男性は、「アイキャンが私たちのメッセージを世界に届けてくれることを願う。」と訴えていました。

スタディーツアー・海外研修事業 9月/フィリピン

ボランティアツアー・スタディツアーに31名が参加



フィリピンのパヤタス事業地、路上事業地を訪問する「ボランティアツアー」と「スタディツアー」を実施しました。「ボランティアツアー」には国士舘大学の学生が19名、「スタディツアー」には様々な世代の12

名が参加しました。ツアーに参加した女性は、「帰国してもつながりを持ち続け、自分にできることの一步として、マンスリーパートナーになりたい。」と話してくれました。

路上の子どもたち 9月22日/マニラ(フィリピン)

過去の経験を活かした路上教育を実施



過去に路上生活をしていたカリエカフェのメンバー2名が、路上の子どもたち17名に路上教育を行いました。「病院に行った際に名前が書けないと困ってしまう」等の、カリエメンバーたち自身の経験も踏まえ、自分の名前、生年月日を

正しく伝え書けるようにするという内容でした。講師をしたメルピンは、「自分の経験を活かすことで、子どもたちの力になれることがあれば嬉しい。」と話しました。

フェアトレード事業 9月16日/愛知

「デンソーハートフルまつり」に出展



デンソーハートフルまつりに出展し、フィリピンのパヤタスのお母さんたちが作ったフェアトレード商品をボランティア2名、インターン1名が販売しました。イベント参加者の中には、「去年のハートフルまつりでアイキャンの商品を購入したけれど、壊れることもなく使用することが出来ている。アイキャンが扱う商品からはお母さんたちの技術力や頑張り、想いや心を感じることができる。」との声を頂きました。

入したけれど、壊れることもなく使用することが出来ている。アイキャンが扱う商品からはお母さんたちの技術力や頑張り、想いや心を感じることができる。」との声を頂きました。